

## 神戸大学医学部附属病院 薬剤部業績

2016 年度

### I. 論文

#### 1. 原著論文

##### 英文

1. Ito S, Yano I, Hashi S, Tsuda M, Sugimoto M, Yonezawa A, Ikeda A, Matsubara K: Population pharmacokinetic modeling of levetiracetam in pediatric and adult patients with epilepsy by using routinely monitored data. *Ther Drug Monit*, 38(3):371-8 (2016)
2. Onoue H, Yano I, Tanaka A, Itohara K, Hanai A, Ishiguro H, Motohashi H, Masuda S, Matsubara K: Significant effect of age on docetaxel pharmacokinetics in Japanese female breast cancer patients by using the population modeling approach. *Eur J Clin Pharmacol*, 72(6):703-10 (2016)
3. Yoshimatsu H, Yonezawa A, Yamanishi K, Yao Y, Sugano K, Nakagawa S, Imai S, Omura T, Nakagawa T, Yano I, Masuda S, Inui K, Matsubara K: Disruption of Slc52a3 gene causes neonatal lethality with riboflavin deficiency in mice. *Sci Rep*, 6:27557 (2016)
4. Zhou Z, Yano I, Odaka S., Morita Y, Shizuta S, Hayano M, Kimura T, Akaike A, Inui K, Matsubara K: Effect of vitamin K<sub>2</sub> on the anticoagulant activity of warfarin during the perioperative period of catheter ablation: Population analysis of retrospective clinical data. *J Pharm Health Care Sci*, 2,17 (2016)
5. Tanaka A, Yano I, Shinsako K, Sato E, Fukudo M, Masuda S, Yamasaki T, Kamba T, Ogawa O, Matsubara K: Population pharmacokinetics of everolimus in relation to clinical outcomes in patients with advanced renal cell carcinoma. *Ther Drug Monit*, 38:663-9 (2016)
6. Sato S, Jung H, Nakagawa T, Pawlosky R, Takeshima T, Lee WR, Sakiyama H, Laxman S, Wynn RM, Tu BP, MacMillan JB, De Brabander JK, Veech RL, Uyeda K: Metabolite Regulation of Nuclear Localization of Carbohydrate-response Element-binding Protein (ChREBP): ROLE OF AMP AS AN ALLOSTERIC INHIBITOR. *J Biol Chem*, 291:10515-27

(2016)

7. Totsuka R, Kondo T, Matsubara S, Hirai M, Kurebayashi Y: Effects of VLA-1 Blockade on Experimental Inflammation in Mice. *Kobe J Med Sci*, 62(2):E27-37 (2016)
8. Mori H, Arita K, Yamaguchi T, Hirai M, Kurebayashi Y: Effects of Topical Application of Betamethasone on Imiquimod-induced Psoriasis-like Skin Inflammation in Mice. *Kobe J Med Sci*, 62(4):E79-E88 (2016)
9. Nakamura T, Takahashi M, Niigata R, Yamashita K, Kume M, Hirai M, Yasui H. Changes in blood concentrations of trace metals in cancer patients receiving cisplatin-based chemotherapy. *Biomed Rep*. 5:737-744 (2016)
10. Kimura T, Ogura F, Yamamoto K, Uda A, Nishioka T, Kume M, Makimoto H, Yano I, Hirai M: Potentially inappropriate medications in elderly Japanese patients: effects of pharmacists' assessment and intervention based on Screening Tool of Older Persons' Potentially Inappropriate Prescriptions criteria ver.2. *J Clin Pharm Ther*. 42:209-214 (2017)
11. Otani Y, Yonezawa A, Tsuda M, Imai S, Ikemi Y, Nakagawa S, Omura T, Nakagawa T, Yano I, Matasubara, K: Time-dependent structural alteration of rituximab analyzed by LC/TOF-MS after a systemic administration to rats. *PLoS One*, 12(1):e0169588 (2017)
12. Takeuchi M, Yano I, Ito S, Sugimoto M, Yamamoto S, Yonezawa A, Ikeda A, Matsubara K: Population pharmacokinetics of topiramate in Japanese pediatric and adult patients with epilepsy using routinely monitored data. *Ther Drug Monit*, 39:124-31 (2017)
13. Kawara F, Fujita T, Morita Y, Uda A, Masuda A, Saito M, Ooi M, Ishida T, Kondo Y, Yoshida S, Okuno T, Yano Y, Yoshida M, Kutsumi H, Hayakumo T, Yamashita K, Hirano T, Hirai M, Azuma T: Factors associated with residual gastroesophageal reflux disease symptoms in patients receiving proton pump inhibitor maintenance therapy. *World J Gastroenterol*, 23(11):2060-2067 (2017)

## 邦文

1. 櫻井香織, 尾崎淳子, 矢野育子, 安達昂一郎, 木村嘉彦, 松村勝之, 西脇布貴, 吉田優子, 池見泰明, 萱野勇一郎, 米澤 淳, 深津祥央, 松原和夫: 病院と薬局の合意に基づく院外処方せんにおける疑義照会簡素化プロトコルとその効果. 医療薬学, 42(5):336-342 (2016)
2. 尾崎淳子, 矢野育子, 山本崇, 小林正行, 高折晃史, 松原和夫: 抗てんかん薬との薬物相互作用を検討したエファビレンツおよびドルテグラビル服用症例. 日本エイズ学会誌, 18(2):163-167 (2016)
3. 宇田篤史, 吉田都, 原口珠実, 樫川舞, 水本篤志, 山本和宏, 平野剛, 内田享弘, 平井みどり: ゾピクロン錠とエスゾピクロン錠の苦味比較, 日本病院薬剤師会雑誌 52(5):529-532 (2016)
4. 古俵孝明, 山際岳朗, 石橋直哉, 深津祥央, 矢野育子, 中村敏明, 松原和夫: テモゾロミド点滴静注用製剤の輸液希釈時における安定性の検討. 日病薬誌, 52(9):1140-1143 (2016)
5. 松村健吾, 大谷祐基, 大村友博, 米澤淳, 津田真弘, 池見泰明, 中川俊作, 今井哲司, 中川貴之, 矢野育子, 吉貴達寛, 松原和夫: LC/QTOF-MS によるフィルグラスチムバイオ後続品の定性・成分分析. 医療薬学, 42(9):613-619 (2016)
6. 栗村朋子, 山本和宏, 池田剛久, 橋本正良, 西岡達也, 久米学, 榎本博雄, 矢野育子, 平井みどり. 「薬剤師外来」における薬学的処方介入とその評価. 医療薬学, 43(3):169-175 (2017)
7. 宇田篤史, 大澤史宜, 山本和宏, 四宮一昭, 平野剛, 平井みどり: ゾピクロン錠とエスゾピクロン錠の苦味比較 (第 2 報) - ランダム化二重盲検クロスオーバー試験 -, 日本病院薬剤師会雑誌 53(2):192-196 (2017)

## 2. 総説

### 邦文

1. 木村文司: 治療域が狭い・副作用が出やすい薬剤における DDI マネジメントの実践例! ②「ジギタリス製剤」, 薬局, 67(8): 2541-2546 (2016)
2. 谷藤亜希子: 治療域が狭い・副作用が出やすい薬剤における DDI マネジメントの実践例! ③「スルホニル尿素薬・グリニド系薬」, 薬局, 67(8):2547-2552 (2016)

3. 木村文司: 知って得する! 実地医科・歯科の薬剤情報 第2回 多剤処方に対する対応の実際 –神戸大学病院における取り組み, 月刊保団連, 2016.10 No.1225:42-46 (2016)
4. 松原和夫, 米澤 淳, 池見泰明, 矢野育子. 待ったなし! 求められるエビデンス~薬剤師が関わるチーム医療のアウトカム. 東京都病院薬剤師会雑誌, 65(4):287-294 (2016)
5. 矢野育子. 院外処方箋に記載される検査項目にはどのようなものがありますか? またそれらからどのような情報を得ることができるのでしょうか? 薬局, 67(10):2820-2825 (2016)
6. 宇田篤史: 第3回(最終回) ポリファーマシー是正の失敗例, 月間保団連, 月間保険医団体連合会 (2016)
7. 山下和彦: オチる前に読む! 感染症治療のピットフォール, バンコマイシン投与時のピットフォール, 月刊薬事, 58(9):2193-2211 (2016)
8. 矢野育子, 池田昭夫: 新薬展望 2017 第III部治療における最近の新薬の位置付け〈薬効別〉~新薬の広場~抗てんかん薬. 医薬ジャーナル, 53(S-1):261-268 (2017)
9. 木村文司: ポリファーマシー解消に向けた取り組み 第1回. 都薬雑誌, 39(2):42-47 (2017)
10. 竹内理人, 矢野育子, 松原和夫: 連載・薬剤師による処方設計〈54〉小児及び成人てんかん患者におけるトピラマートの母集団薬物動態解析とその臨床応用. 医薬ジャーナル, 53(3):899-903 (2017)
11. 木村文司, 矢野育子, 平井みどり: ポリファーマシーに関連する問題と、STOPP criteria を活用した高齢者に対する不適切処方のスクリーニング, 日本病院薬剤師会雑誌, 53(3):273-278 (2017)
12. 山本和宏, 中川勉, 矢野育子, 平井みどり: シグナル伝達因子に起因する間質性肺炎発症メカニズム, 別冊 Bio Clinica, 6(1):121-125 (2017)
13. 崎山晴彦, 中川勉, 江口裕伸, 吉原大作, 藤原範子, 鈴木敬一郎: 転写因子 ChREBP を標的とした生活習慣病の予防法及び治療薬の開発, 細胞, 49(2):81-84 (2017)
14. 木村文司: 2016年(第51回) ASHP ミッドイヤー臨床薬学会議に参加して. 日本病院薬剤師会雑誌, 53(3):315-317 (2017)

## II. 書籍

### 1. 著書（分担執筆）

#### 邦文

1. 平井みどり, 木村丈司, 宇田篤史, 西岡達也: ここからはじめる! 薬剤師が解決するポリファーマシー 症例から学ぶ、処方適正化のための介入の ABC. 羊土社. (2016)
2. 木村丈司: ケーススタディでわかる脱ポリファーマシー, 南江堂, 110-111, 128-130, 141-142, 160, 191-192, 206-208 (2016)
3. 谷藤亜希子: 今日の治療指針 2017 年版, 服薬指導・薬剤情報 (肺結核, 非結核性抗酸菌症, 無月経・乳汁漏出症候群, パーキンソン病の内科的治療), 医学書院, 283-284, 284-285, 755, 916-917 (2017)

## III. 受賞

1. 平井みどり (代表): ポリファーマシーに介入する薬剤師チーム, 神戸大学医学部附属病院病院長賞
2. 山本和宏: 腎細胞がんに対する分子標的治療薬の有効性・副作用予測因子に関する研究, 日本医療薬学会奨励賞
3. 小出慶子 (代表): ひょっとして「副作用」!?見逃さない薬剤師になるための第一歩, 第 10 回日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会大会優秀発表賞

## IV. 学会発表

### 1. 国際学会

1. Kimura T, Ogura F, Nishioka T, Yano I, Hirai M: Potentially inappropriate medications in elderly Japanese patients: Effects of pharmacists' assessment and intervention based on screening tool of older persons' potentially inappropriate prescriptions criteria version 2, 2016 ASHP Midyear Clinical Meeting and Exhibitions, December, 2016, Las Vegas, NV
2. Watanabe A, Yamamoto K, Ioroi T, Hirata S, Harada K, Miyake H, Fujisawa M, Nakagawa T, Yano I, Hirai M: Association of Single Nucleotide Polymorphisms in STAT3, ABCB1, and ABCG2 with

Stomatitis in Patients with Metastatic Renal Cell Carcinoma Treated with Sunitinib: A Retrospective Analysis in Japanese Patients: The 5th International Symposium of Training Plan for Oncology Professionals, March 2017, Osaka

3. Hanai A, Ishiguro H, Sozu T, Tsuda M, Yano I, Nakagawa T, Imai S, Hamabe Y, Toi M, Arai H, Tsuboyama T: Effects of Topical Cryotherapy on Chemotherapy-induced Peripheral Neuropathy among Breast Cancer Patients: A Self Controlled Clinical Trial. The 5th International Symposium of Training Plan for Oncology Professionals, March 2017, Osaka
4. Nakamura T, Takahashi M, Niigata R, Yamashita K, Kume M, Hirai M, Yasui H: Changes in serum iron and zinc concentrations in the early stages of CDDP-based chemotherapy, The American Society for Clinical Pharmacology and Therapeutics 2017 Annual Meeting, March 2017, Washington, DC.

## 2. 国内学会

### 特別講演・シンポジウム

1. 山本和宏：分子標的治療薬の適正使用に向けた現場実践型研究の推進 -病院薬剤師の挑戦と責務-：学術大会ベストポスター賞受賞者シンポジウム，日本病院薬剤師会東北ブロック第6回学術大会，2016年5月，福島
2. 矢野育子：実臨床データを用いた新規抗てんかん薬のファーマコメトリクス，医療薬学フォーラム2016，2016年6月，滋賀
3. 阪上倫行：感染制御チームにおける業務・研究と人材育成～薬剤師が中心となるチーム医療（ASP）を通じて～，医療薬学フォーラム2016，2016年6月，滋賀
4. 槇本博雄：病院における添付文書と関連資料の活用，第19回日本医薬品情報学会総会・学術大会，2016年6月，東京
5. 谷藤亜希子：インクレチン関連薬のRMPを活用する，第19回日本医薬品情報学会総会・学術大会，2016年6月，東京
6. 木村丈司：病棟でのポリファーマシー対策の取り組み，第58回日本老年医

- 学会学術集会, 2016年6月, 金沢
7. 木村文司: 神戸大学病院における Antimicrobial Stewardship Team の現状とその評価, 第64回日本化学療法学会総会, 2016年6月, 神戸
  8. 橋本真梨: 嗜好品(カフェイン、アルコール), 第56回日本先天異常学会学術集会, 2016年7月, 姫路
  9. 木村文司: 病院におけるポリファーマシー対応, 第9回日本在宅薬学会学術大会, 2016年7月, 大阪
  10. 都築徹教, 矢野育子, 松原和夫: ファーマメトリクスに基づくタクロリムス投与個別適正化の実践, 第26回日本医療薬学会年会, 2016年9月, 京都
  11. 木村文司: ポリファーマシーへの取り組み -急性期・大学病院の立場から-, 第26回日本医療薬学会年会, 2016年9月, 京都
  12. 小倉史愛, 木村文司: 高齢者薬物療法を取り巻くポリファーマシー問題—高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015を薬剤師はどのように活用するか—, 第26回日本医療薬学会年会, 2016年9月, 京都
  13. 山本和宏: 遺伝子情報を実践的に活用するための連携体制の構築に向けた動向と課題, 第26回日本医療薬学会年会, 2016年9月, 京都
  14. 山本和宏: 奨励賞受賞講演: 腎細胞がんに対する分子標的治療薬の有効性・副作用予測因子に関する研究, 第26回日本医療薬学会年会, 2016年9月, 京都
  15. 宇田篤史: 高齢者のポリファーマシーにおける薬物相互作用の危険性と神戸大学病院での取り組み, 第37回日本臨床薬理学会学術総会, 2016年12月, 鳥取
  16. 宇田篤史: 神戸大学医学部附属病院におけるポリファーマシーへの取り組み, 平成28年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議, 2017年1月, 滋賀
  17. 山下和彦: バンコマイシン TDM ガイドラインの根拠を考える, 第38回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 2017年2月, 大阪

一般演題

1. 都築徹教、矢野育子、中川俊作、杉本充弘、佐藤裕紀、津田真弘、上杉美和、岡島英明、海道利実、上本伸二、松原和夫：生体肝移植術後のタクロリムス静脈内投与から経口投与への切り替え換算量に関する検討、第33回日本TDM学会・学術大会、2016年5月、宇都宮
2. 田中雄大、山本和宏、大澤史宜、早川晶、山本暢之、森健、岡本千明、山下和彦、西岡達也、久米学、榎本博雄、平井みどり：メチルプレドニゾロンの吸収不良により造血細胞移植後急性移植片対宿主病のコントロールに難渋した急性リンパ性白血病の1症例、第33回日本TDM学会・学術大会、2016年5月、宇都宮
3. 中川勉、崎山晴彦、山本和宏、藤原範子、鈴木敬一郎、平井みどり：エイコサペンタエン酸（EPA）が血清中性脂肪を低下させる分子メカニズムの解明、第63回日本生化学会近畿支部例会、2016年5月、神戸
4. 芝唯、山本育子、谷藤亜希子、西井美佳、小野くみ子、田淵聡子、脇田久美子、山西美沙、赤毛弘子、中嶋沙姫、松尾彩加、内田絢子、玉田萌子、西田ひかる、三ヶ尻礼子、戸田明代、筒井輪央、山本将士、高橋路子、宇佐美真、廣田勇士、坂口一彦：栄養指導における糖尿病チームでの動機づけ指導の有用性、第59回日本糖尿病学会年次学術集会、2016年5月、京都
5. 小出慶子、西岡達也、久米学、榎本博雄、矢野育子、平井みどり：ひょっとして「副作用」!?見逃さない薬剤師になるための第一歩、第10回日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会大会、2016年5月、名古屋\*優秀発表賞受賞
6. 尾崎淳子、山本浩貴、櫻井香織、上杉美和、石塚良子、矢野育子、小石奈月、竹下麻美、安彦郁、松村由美、松原和夫：術前外来における薬剤師の取り組み～術前休薬基準の作成と運用、第19回日本医薬品情報学会総会・学術大会、2016年6月、東京
7. 谷藤亜希子、野崎晃、榎本博雄、平野剛、平井みどり：医薬品情報管理の効率化を目指した普遍的な医薬品情報の共有と統合（平成27年度日本医薬品情報学会課題研究班研究成果報告）、第19回日本医薬品情報学会総会・学術大会、2016年6月、東京
8. 谷藤亜希子、飯久保尚、大野能之、甲斐絢子、笠原英城、濱敏弘、若林進、林昌洋：医薬品リスク管理計画（RMP）の記載内容の分かり易さ調査、第



- 19 回日本医薬品情報学会総会・学術大会, 2016 年 6 月, 東京
9. 若林進, 飯久保尚, 大野能之, 甲斐絢子, 笠原英城, 谷藤亜希子, 濱敏弘, 林昌洋: 医薬品リスク管理計画 (RMP) の認知度・利活用に関する実態調査, 第 19 回日本医薬品情報学会総会・学術大会, 2016 年 6 月, 東京
  10. 富田猛, 野崎晃, 大澤史宜, 宇田篤史, 西岡達也, 久米学, 槇本博雄, 平井みどり: 医薬品情報室における医薬品改訂情報の収集と発信方法に関する検討, 第 19 回日本医薬品情報学会総会・学術大会, 2016 年 6 月, 東京
  11. 田原三矢郎, 中川俊作, 大村友博, 今井哲司, 米澤 淳, 中川貴之, 矢野育子, 松原和夫: 腎機能低下時におけるフルオロウラシルの体内動態, 医療薬学フォーラム 2016, 2016 年 6 月, 滋賀
  12. 西村明子, 片田佳希, 中川俊作, 佐藤裕紀, 田上裕美, 米澤 淳, 矢野育子, 山崎和裕, 南方謙二, 松原和夫, 中川貴之: ワルファリンの抗凝固作用に及ぼす食事摂取量の影響, 医療薬学フォーラム 2016, 2016 年 6 月, 滋賀
  13. 宮山 大, 今井哲司, 辻 光貴, 重面雄紀, 米澤 淳, 大村友博, 中川俊作, 矢野育子, 中川貴之, 松原和夫: 社会的挫折ストレス負荷によるうつ病モデルマウスにおけるブロチゾラム誘発睡眠作用の効力変化に関する行動薬理学的研究, 医療薬学フォーラム 2016、2016 年 6 月, 滋賀
  14. 國光葉子, 山下和彦, 西岡達也, 久米学, 槇本博雄, 中村任, 平井みどり: 脳神経外科領域 CARE 療法におけるカルバート式を用いた血液毒性の予測性に関する検討, 医療薬学フォーラム 2016, 2016 年 6 月, 滋賀
  15. 田中雄大, 山下和彦, 土居襟子, 西岡達也, 久米学, 槇本博雄, 立原素子, 小林和幸, 中村任, 西村善博, 平井みどり: 経口マグネシウム製剤投与によるシスプラチンの腎障害予防効果の検討, 医療薬学フォーラム 2016, 2016 年 6 月, 滋賀
  16. 青木紫織, 五百蔵武士, 中川勉, 日比徹, 丹田雅明, 奥野護, 茶屋原菜穂子, 清田尚臣, 南博信, 平井みどり: 化学療法及び放射線化学療法に伴う口内炎に対するイブプロフェン含嗽剤の安全性と有効性を検討する非盲検非対照第 I/II 相試験, 第 14 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2016 年 7 月, 神戸
  17. 平野剛, 石橋和佳乃, 櫻田 渉, 中山 章, 吉田栄一, 谷藤亜希子, 中川 勉, 平井みどり: 統合型薬剤師教育システムを活用した実務実習前における臨

- 床知識の評価, 第1回日本薬学教育学会大会, 2016年8月, 京都
18. 片田佳希, 田上裕美, 中川俊作, 佐藤裕紀, 山本 崇, 石塚良子, 米澤 淳, 矢野育子, 中川貴之, 松村由美, 松原和夫: 集中治療室における薬剤師専従による薬物治療への安全性貢献の評価, 第26回日本医療薬学会年会, 2016年9月, 京都
  19. 木全 紘全, 片田佳希, 杉本充弘, 都築徹教, 松原惇起, 中川俊作, 深津祥央, 米澤 淳, 矢野育子, 中川貴之, 松原和夫: 全病棟での担当薬剤師による抗 MRSA 薬の投与設計体制の構築とその評価, 第26回日本医療薬学会年会, 2016年9月, 京都
  20. 西川 光, 森田洋亮, 田澤晃太郎, 中川俊作, 吉田優子, 米澤 淳, 矢野育子, 中川貴之, 赤木忠道, 松原和夫: 白内障手術前後における患者の薬識に関する調査, 第26回日本医療薬学会年会, 2016年9月, 京都
  21. 漣 航平, 石橋直哉, 森田洋亮, 中川俊作, 池見泰明, 深津祥央, 米澤 淳, 矢野育子, 中川貴之, 寺田直樹, 山崎俊成, 小川 修, 松原和夫: カバジタキセル投与患者における好中球減少のリスク因子の探索, 第26回日本医療薬学会年会, 2016年9月, 京都
  22. 清水倫子, 西脇布貴, 吉田優子, 池見泰明, 中川俊作, 米澤 淳, 矢野育子, 中川貴之, 林 智誠, 北村守正, 大森孝一, 松原和夫: 甲状腺癌に対するレンバチニブ治療の現状と薬剤師の関わり, 第26回日本医療薬学会年会, 2016年9月, 京都
  23. 江口舞, 星野賢悟, 藤田浩平, 岡崎裕太郎, 木村文司, 西岡達也, 久米学, 槇本博雄, 矢野育子, 平井みどり: テンプレートを活用した周術期管理におけるシームレスな薬学的管理の導入と評価, 第26回日本医療薬学会年会, 2016年9月, 京都
  24. 北村直子, 山崎純子, 小谷真基, 石田裕紀, 芝田, 森谷友美, 梶川清香, 久米学, 平井みどり, 永井洋士: 症例報告書を再構築できる原データの品質管理に対する取り組み, 第16回CRCと臨床試験のあり方を考える会議, 2016年9月, 大宮
  25. 中川勉, 崎山晴彦, 山本和宏, 藤原範子, 鈴木敬一郎, 平井みどり: Carbohydrate response element-binding protein (ChREBP)の活性制御に及ぼす O-GlcNAc 修飾の影響, 第89回日本生化学会大会, 2016年9月, 仙台

26. 赤田菜々, 中川俊作, 大村友博, 今井 哲, 米澤 淳, 中川貴之, 矢野育子, 松原和夫: 貧血時におけるタクロリムスの体内動態, 第 66 回日本薬学会近畿支部総会・大会, 2016 年 10 月, 大阪
27. Itohara K, Yano I, Tsuzuki T, Nakagawa S, Yonezawa A, Okajima H, Kaido T, Uemoto S, Matsubara K: Physiologically-based pharmacokinetic modeling and simulation of tacrolimus in living-donor liver transplantation: Effects of liver regeneration and CYP3A5 genotype, 日本薬物動態学会第 31 回年会, 2016 年 10 月, 松本
28. 西岡達也, 鈴木渉太, 小出慶子, 國枝卓子, 榊原晶子, 平井みどり, 味木徹夫: 病棟薬剤師による持参薬の処方仮登録とその評価, 第 11 回医療の質・安全学会学術集会, 2016 年 11 月, 千葉
29. 岩崎真実, 矢野育子, 端 幸代, 山本由貴, 杉本充弘, 福土将秀, 増田智先, 中川俊作, 米澤淳, 海道利実, 上本伸二, 松原和夫: 生体肝移植術後における 1 日 1 回製剤のタクロリムス薬物動態と薬効, 第 37 回日本臨床薬理学会, 2016 年 12 月, 米子
30. 吉村和晃, 矢野育子, 山本 崇, 川西美咲, 磯本唯, 米澤 淳, 近藤忠一, 高折晃史, 松原和夫: 臍帯血移植患者におけるミコフェノール酸血中濃度と急性 GVHD 発症との関連, 第 37 回日本臨床薬理学会, 2016 年 12 月, 米子
31. 谷藤亜希子, 山崎直樹, 岡崎裕太郎, 松本久美子, 小澤拓, 松田季代子, 芝唯, 小野くみ子, 高田綾子, 岡田裕子, 廣田勇士, 西岡達也, 久米学, 榎本博雄, 矢野育子, 平井みどり: 参加型を意識した糖尿病教室用ツール・薬物療法かるたとカードの開発, 第 38 回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 2017 年 2 月, 大阪
32. 國光葉子, 山下和彦, 篠山隆司, 西岡達也, 久米学, 榎本博雄, 中村任, 矢野育子, 平井みどり: 脳神経外科領域 CARE 療法におけるカルボプラチン推定 AUC と抗腫瘍効果ならびに血液毒性の関連について, 第 38 回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 2017 年 2 月, 大阪
33. 小居秀紀, 五百蔵武士, 池原由美, 石井涼子, 太田康之, 蔵田靖子, 近藤智子, 末正洋一, 信谷宗平, 水井貴詞, 南千華子, 山田周子, 鈴木千恵子, 久米学: 医療機関におけるデータマネジメント (Site Data Management ; SDM) の仕組みに関する検討～関係者の役割・業務分担を中心に～, 日本

臨床試験学会 第8回学術集会総会, 2017年2月, 大阪

34. 田淵聡子, 高橋路子, 生田智子, 曾我昭宏, 永濱郁代, 上岡美和, 北秋翔子, 内田絢子, 三ヶ尻礼子, 山本育子, 山本将士, 小川渉, 宇佐美眞: NEST介入による適切な栄養管理で肝移植後の難知性腹水が改善した糖原病患者の一例, 第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 2017年2月, 岡山
35. 村前直和, 田淵聡子, 山岡慶子, 上岡美和, 生田智子, 曾我昭宏, 秋山絵里, 北秋翔子, 内田絢子, 永濱郁代, 山本育子, 山本将士, 高橋路子, 小川渉: 下痢の乱用に伴う重度の腸管機能不全に対して栄養管理を行った1例, 第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 2017年2月, 岡山
36. 植田梨沙, 丹田雅明, 槇本博雄, 西岡達也, 久米学, 濱口常男, 岩川精吾, 北河修治, 矢野育子, 平井みどり: 経口抗がん薬処方に対する地域保険薬局との連携強化に向けた保険薬局薬剤師の意識調査と連携ツールの作成, 2017年3月, 日本臨床腫瘍薬学会学術大会2017, 新潟
37. 松尾研志, 近藤美貴, 吉村一晃, 中川俊作, 米澤 淳, 中川貴之, 矢野育子, 松原和夫: 小児におけるテイコプラニンの薬物動態解析, 日本薬学会第137年会, 2017年3月, 仙台
38. 石川愛子, 宇田篤史, 矢野育子, 富田 猛, 阪上倫行, 野崎 晃, 西岡達也, 久米 学, 槇本博雄, 濱口常男, 岩川精吾, 北河修治, 平井みどり: 院外処方箋における疑義照会簡素化プロトコールの運用とその効果, 日本薬学会第137年会, 2017年3月, 仙台
39. 伊藤雄大, 志田有里, 西岡達也, 久米 学, 槇本博雄, 矢野育子, 平井みどり: 頭頸部がん患者における cisplatin と強度変調放射線同時併用療法の完遂率を低下させる因子の検討, 日本薬学会第137年会, 2017年3月, 仙台
40. 住吉霞美, 山本和宏, 田中雄大, 久木田礼子, 阪上倫行, 木村丈司, 西岡達也, 久米 学, 槇本博雄, 矢野育子, 平井みどり: 後方視的解析に基づくバンコマイシン初回投与ノモグラムの検討, 日本薬学会第137年会, 2017年3月, 仙台
41. 山本和宏, 劉 兵, 原 琢人, 渡邊愛未, 西岡達也, 久米 学, 槇本博雄, 中川 勉, 矢野育子, 三宅秀明, 藤澤正人, 平井みどり. 腎細胞癌患者のスニチニブ治療効果に及ぼす組織 STAT3 発現の影響. 日本薬学会第137年会, 2017年3月, 仙台

42. 渡邊愛未, 山本和宏, 中川 勉, 矢野育子, 平井みどり: mTOR 阻害薬によるトリグリセリド合成亢進作用における ACAA2 の役割, 日本薬学会第 137 年会, 2017 年 3 月, 仙台
43. 穂原裕奈, 山本和宏, 渡邊愛未, 七里博章, 中川 勉, 濱口常男, 矢野育子, 平井みどり: エベロリムスによる間質性肺疾患発症メカニズムにおける TGF- $\beta$  の関与, 日本薬学会第 137 年会, 2017 年 3 月, 仙台
44. 小野ひとみ, 山本和宏, 七里博章, 渡邊愛未, 中川 勉, 濱口常男, 矢野育子, 尾藤利憲, 錦織千佳子, 平井みどり: エルロチニブによる皮膚障害におけるアクアポリン 3 の発現変動, 日本薬学会第 137 年会, 2017 年 3 月, 仙台

#### 研究会等

1. 久米学:「IRB」, 日本臨床試験学会 教育セミナー「GCP Basic training セミナー (大阪地区)」, 2016 年 6 月, 大阪
2. 丹田雅明: 2014-2015 新薬 review, 日本臨床腫瘍薬学会外来がん化学療法認定薬剤師アップデートセミナー, 2016 年 6 月, 大阪
3. 矢野育子: 小児領域におけるファーマコメトリクスの活用, 摂南大学薬学部 臨床研究センター設立記念シンポジウム「日本の小児医療環境を考える」, 2016 年 7 月, 大阪
4. 木村文司: 多剤処方・ポリファーマシーを防ぐために, 2016 年 全国保険医団体連合会 研究学術交流会, 2016 年 7 月, 東京
5. 西岡達也: これって大丈夫? 院内ラウンドから見た消毒薬の適正使用, 第 2 回看護師の為の臨床薬理学研究会 in 北海道 (PEACH), 2016 年 7 月, 北海道
6. 西岡達也: みんなで取り組む消毒薬の適正使用, 大阪府臨床工学技士会 第 10 回血液浄化セミナー, 2016 年 8 月, 大阪
7. 矢野育子: Up-to-date 抗てんかん薬の TDM, 第 37 回三重てんかん研究会, 2016 年 9 月, 三重
8. 鈴木亜矢子: おっぱいあげても大丈夫?! 授乳中の薬について~妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師の役割~, 明石医療センター, 2016 年 9 月, 明石
9. 大谷祐基, 米澤 淳, 池見泰明, 津田真弘, 磯本 唯, 今井哲司, 大村友

- 博, 中川俊作, 中川貴之, 矢野育子, 北野俊行, 高折晃史, 松原和夫: 抗体医薬品の薬物動態評価とその変動因子の探索, 第 32 回京都がん研究会 2016 年 9 月, 京都
10. 中川勉: 不飽和脂肪酸が血清中性脂肪を低下させる分子メカニズムの解明: ChREBP の抑制機構の解明, 2016 年 9 月, 奈良
  11. 木村丈司: 神戸大学病院薬剤部におけるポリファーマシー対策. 第 69 回兵庫県医師会医学会, 2016 年 10 月
  12. 谷藤亜希子: 病棟薬剤業務に必要とされる医薬品情報, 島根県病院薬剤師会学術研修会・特別講演, 2016 年 10 月, 島根
  13. 矢野育子: 薬物療法の適正化: クリニカルクエスチョンから臨床研究へ、そして再び臨床へ, 信州病棟薬剤師セミナー, 2016 年 11 月, 松本
  14. 五百蔵武士: 「IRB」, 日本臨床試験学会教育セミナー「GCP Basic training セミナー (大阪地区)」, 2016 年 11 月, 大阪
  15. 栗村朋子: 薬剤師からみた抗凝固薬の適正使用について, INNOVATE in Kobe, 2016 年 12 月, 神戸
  16. 山岡慶子, 村前直和, 田淵聡子, 生田智子, 曾我昭宏, 秋山恵里, 永濱郁代, 上岡美和, 西田ひかる, 北秋翔子, 東口佳苗, 山本麻里, 福住典子, 櫻井孝介, 山本将士, 高橋路子, 平井みどり, 小川 渉: 低栄養に伴う免疫不全から全身合併症を来した重症神経性食思不振症の 1 例, 第 26 回近畿輸液・栄養研究会, 2016 年 12 月, 大阪
  17. 小寺史子, 山岡慶子, 南陽香, 新藤良太, 高橋宗史, 大塚郁夫, 毛利健太郎, 森寛行, 平井みどり: チーム医療における病棟薬剤師の役割 ~精神疾患を合併した膠原病患者への取り組み~, 第 14 回兵庫リウマチチーム医療研究会, 2016 年 12 月, 神戸
  18. 西岡達也: 抗菌薬の適正使用 (抗真菌薬も含め), 平成 28 年度院内感染対策講習会① (厚生労働省委託事業), 2017 年 1 月, 神戸
  19. 矢野育子: ファーマコメトリクスを活用した医薬品開発と個別投与設計, 平成 28 年度熊本薬学教育部大学院「先端医療学特論」, 2017 年 1 月, 熊本
  20. 矢野育子: 抗てんかん薬の TDM とファーマコゲノミクス, 平成 28 年度 北海道薬科大学生涯学習センター: 病態・薬物治療フォローアップ講座, 2017 年 2 月, 札幌
  21. 矢野育子: 院外処方箋における疑義照会簡素化について, Kobe Pharmacist

Seminar, 2017年2月, 神戸

22. 西岡達也: みんなで取り組む消毒薬の適正使用, 兵庫県臨床工学技士会 第24回血液浄化セミナー, 2017年2月, 神戸
23. 木村文司: ポリファーマシーとの向き合い方 ~神戸大学における取り組み~, 第1回 AB会特別講演会, 2017年2月, 横浜
24. 石川愛子, 宇田篤史, 矢野育子, 富田猛, 阪上倫行, 野崎 晃, 西岡達也, 久米 学, 槇本博雄, 濱口常男, 岩川精吾, 北河修治, 平井みどり: 院外処方箋における疑義照会簡素化プロトコールの運用とその評価, 第6回日本薬剤師レジデントフォーラム, 2017年3月, 東京
25. 植田梨沙, 丹田雅明, 槇本博雄, 西岡達也, 久米 学, 濱口常男, 岩川精吾, 北河修治, 矢野育子, 平井みどり: 経口抗がん薬処方に対する保険薬局との連携強化のためのツールの評価と今後の課題, 第6回日本薬剤師レジデントフォーラム, 2017年3月, 東京
26. 小澤拓, 大本暢子, 栗原晶子, 久米学, 西岡達也, 槇本博雄, 矢野育子, 濱口常男, 岩川精吾, 北河修治, 平井みどり: 吸入指導外来の立ち上げとその評価について, 第6回日本薬剤師レジデントフォーラム, 2017年3月, 東京
27. 宇田篤史: 神戸大学病院におけるポリファーマシーへの取り組み, 6th Active Pharmacist Seminar in HYOGO, 2017年3月, 神戸
28. 丹田雅明: 経口抗がん薬治療における副作用対策の標準化とトレーシングレポートを用いた薬薬連携, 第20回関西がんチーム医療研究会, 2017年3月, 大阪

## V. 特許申請

なし

## VI. 研究補助金

1. 矢野育子: スペシャルポピュレーション投与設計のための実臨床におけるファーマコメトリクス, 平成 28-30 年度科学研究助成事業 (基盤 C) 1,400,000 円 (平成 28 年度分)
2. 中川勉: ChREBP による GLUT2 の発現制御を介した血糖調節機構の解明, 平成 28-30 年度科学研究助成事業 (基盤研究 C) 1,400,000 円 (平成 28 年

度分)

3. 久米学：抗がん剤による神経障害の発現機序の解明，平成 28-30 年度科学研究助成事業（基盤研究 C）1,200,000 円（平成 28 年度分）
4. 木村文司：平成 28 年度 ASHP ミッドイヤー臨床薬学会議参加助成，200,000 円
5. 山本和宏：薬剤性肺線維症の分子メカニズムの解明とゲノム薬理学的解析の統合的研究，平成 28-30 年度科学研究助成事業（基盤研究 C）1,500,000 円（平成 28 年度分）